

# 令和2年度学校自己評価システムシート（県立特別支援学校さいたま桜高等学園）

目指す学校像	1 生徒一人一人の主体的な学びを通し、持てる力を最大限に発現できる教育実践に取り組む学校 2 生徒一人一人の社会で生きて働く力を着実に育み、一般就労の実現と職場定着の向上に取り組む学校
--------	---

重点目標	1 生徒一人一人の能力や特性を踏まえ、生きて働く力を確実に高めるため、主体的・対話的で深い学びの実践、教員同士の学び合いを充実させ、更なる授業力の向上と就労支援の充実を図る。 2 生徒一人一人の調和のとれた心と身体づくりに取り組み、生徒自身の自己肯定感の向上を図る。 3 教職員一人一人が持ち味を生かしチームとなって、地域との連携・協働した活動の推進に取り組む。
------	---

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	名
	生徒	名
	事務局(教職員)	名

学 校 自 己 評 価							
年 度 目 標				年 度 評 価 ( 月 日 現 在 )			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	○ 研究1年目の成果として、「主体的・対話的で深い学び」の観点に基づいた授業実践と授業改善が進みつつある。また「SAKURA 賞」が生徒に定着し、生徒が主体的に活躍できる場面が増加した。進路指導では卒業後のアフターケアを卒業すぐに行う取組を行い、高い定着率が実現できた。 □ 教育課程の拡充を見据え、「主体的・対話的で深い学び」の観点に基づく授業改善を推進し、教職員の学び合いを深め、生きて働く力を育成するための授業力の更なる向上を図るとともに、生徒一人一人の進路を実現するために職業生活に結びつく授業内容の整備をさらに進め、就労支援を充実させる必要がある。	・ 一人一人の生徒の能力や適性を踏まえながら、生きて働く力を高めるための授業力向上と就労支援の充実を図る。	①校内授業研究会や3校学び合い等を通じて教職員の学び合いを深め、ICT 機器等を活用した主体的・対話的で深い学びの授業実践、授業改善を行う。 ②校内研修や外部専門家等の指導・助言を活用し、教職員一人一人の進路指導のスキルアップを図るとともに、現場実習の振り返り等を実践に行い、学校全体で進路指導の充実に取り組む。	①教員間の学び合いを深め、授業改善、指導計画の見直しを行ったか。 ②教職員一人一人のスキルアップが行われ、生徒に適切な進路指導が行えたか。			
2	○チェックシートの見直しを行い、生徒本人がプラン作成に参画し、個別面談、授業参観期間を設定して保護者とも課題の確認ができるようになった。また生徒一人一人が課題改善に向け取り組めるよう授業ノート「明日へStep」を作成した。 □生徒・保護者・教職員との情報共有を確実にしながら、自立活動や特別の教科道徳との関連も踏まえ、生徒一人一人が課題改善に向けた取組を行い、自己肯定感を高める指導を充実させる。	・ 生徒、保護者、教職員、地域と確実に連携しながら、調和のとれた心身の伸長を図り、生徒の自己肯定感を高める。	①改善したチェックシートを活用した生徒のプラン作成参画により、生徒自身が課題を認識できるようにするとともに、「明日へStep」の活用を生徒に定着させ、本人、保護者と連携し、生徒一人一人が課題改善に向け取り組めるよう指導を行う。 ②新日課によって確保された時間を活用し、教職員が生徒一人一人と向き合い、自己肯定感を高める指導を行う。	①生徒一人一人が課題に気づき自ら意欲的に課題改善に取り組むことができたか。 ②生徒一人一人が意欲的に学習に取り組み、自己肯定感を高めることができたか。			
3	○カフェやショップ等の運営、外注による製品の作成が県や地域から大きく評価されている。また高校支援においても実績を重ね期待される連携校となっている。また年間行事計画を見直し、会議、研修日等の確保を行った。 □本校の製品作りやサービスの提供、高校や企業支援を推進し、センター的機能を充実させるとともに、年間行事計画を見直して確保された会議時間等を最大限に活用し、情報共有を行って組織の力を向上させる。	・ 共生社会を推進するためのセンター的機能の充実を図るとともに、生徒と話す時間の確保、生徒のことを話すことを話す時間の確保を柱とした働き方改革を推進する。	①地域等のニーズを把握し、連携・協働した取組（ショップ、カフェの運営、高校支援、企業支援）をさらに充実させ、積極的に成果等の情報を発信する。 ②変更されたPTAの各組織と連携、協働し生徒の活躍の場の設定と情報発信を行う。 ③会議、研修等の時間を有効に活用し、担任、学年、学科等で情報共有を行い、組織の力を高める。	①それぞれの取組において、ニーズを的確に把握して成果を挙げ、それらを適切に情報発信することができたか。 ②各組織と連携し、生徒の活躍を地域に発信できたか。 ③生徒と話す時間の確保、生徒のことを話すことを話す時間の確保など働き方改革を推進できたか。			

学 校 関 係 者 評 価	
実施日	令和 年 月 日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
・	